



マスタース陸上 国際大会
棒高跳び・200メートルハードル
金メダリスト

玉置 隆也さん (小原)

学生時代に陸上競技に打ち込んだ経験を生かし、県立高校の体育教諭として陸上部の顧問を務めた。退職後、マスタース陸上の世界に入り、国内外の大会に出場を続け、2018年10月に奈良県で開催された国際大会で2つの金メダルを獲得した。棒高跳び、ハードル走、混成競技など、多種目に取り組んでいる。現在、85歳。

▶全日本マスタース陸上競技選手権で棒高跳びに出場する玉置さん



▲ハードル走の練習に取り組む玉置さん



陸上競技を始めたきっかけは？

もともと長距離を走ることが好きでした。津山高校2年生のとき、全校生徒が参加するマラソン大会で2位になりました。この時とてもうれしかったことがきっかけで、陸上競技に目覚めました。大学に進学後、陸上部に入って本格的に取り組み始めました。

マスタース陸上の魅力は？

学生時代は「良い記録を出したい」という一心でしたが、60歳でマスタース陸上の世界に入ってから、「一緒に陸上競技を楽しむ仲間と出会えることの喜び」を知りました。国内大会で出会う選手や練習仲間はもちろんのこと、2005年スペイン世界大会では、戦ったドイツやロシアの選手と親しくなって手紙のやりとりをするなど、世界の選手たちと出会えたことも、わたしの大切な財産です。

体づくりの秘訣は？

健康な体を維持するために、毎日必ず体を動かして、汗をかくようにしています。また、わたしは豚肉や牛乳、野菜を好んで毎日食べています。食事は、競技で良い記録を出すための体づくりに欠かせないことだと感じています。

津山の皆さんにメッセージを

津山には陸上競技場やグリーンヒルズなどがあり、陸上競技の練習をする場所に恵まれています。また、支えてくれる家族や、応援してくれる友人・知人にとっても感謝しています。わたしには「10種競技で日本記録を出したい」という夢があります。津山の元気と活気につながるよう、「生涯現役」を目指して続けていきたいです。

わたしは毎年、大掃除をきちんとできていないので、今年の年末年始は家中をきれいにしました。2019年は元号の変更や消費税の増税など、わたしたちの生活に大きな変化をもたらす1年になりそうですね。1年間、広報津山をご愛読いただき、ありがとうございます。今年もよろしくお祈りします。(W)

盆地の地形から霧に包まれる津山が、霧発生の仕組みを解説する天気予報番組に登場。県南部に住む人からは「津山の冬は霧が出てばかりで太陽が見えない」と言われ…。寒くなれば当たり前前の存在で、その日の快晴を確信させてくれる霧。こんなに注目されるのなら、霧を使って町をPRできないかな。(C)

仕事が順調に進み、気分が乗っていたので、帰宅後に洗濯物を片付けてYシャツなどをアイロンがけしました。丁寧に袖口を伸ばしていくと、袖の中からお臭を放つカメムシが登場!! せっかくなきれいにしたのに…。気持ち切り替えて別の衣類をアイロンがけし、きれいになったのを見て自然とニッコリ。(S)

